

あれこれかあ



ICHIKAWA LIBRARY

参考業務月報

2023年4月号

発行：市川市中央図書館 編集：レファレンスカウンター 〒272-0015 市川市鬼高1-1-4 TEL. 047-320-3346

	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
4月	648	450	368	8	9	1,483	1,671	32	187	238	138	484	4,233
累計	648	450	368	8	9	1,483	1,671	32	187	238	138	484	4,233

INF:インフォメーション・カウンタ REF:レファレンス・カウンタ BM:自動車図書館

📄 今月のレファレンス記録票から

分類	質問と内容
----	-------

I/Q1 平成20年～22年の市川市の教育功労賞の受賞者を知りたい。

年刊の『市川市の教育』『市政概要』には掲載なし。教育広報紙「教育いちかわ」を合冊製本した『教育いちかわ 151-205』（市川市教育センター／編集 市川市教育委員会）に収録されている「教育いちかわ」157号（平成20年）、161号（平成21年）、165号（平成22年）に掲載があった。「教育いちかわ」のバックナンバーは市の公式 Web サイト <https://www.city.ichikawa.lg.jp/edu17/1111000050.html>（2023.5.12 確認）からも閲覧可能。

484 20世紀まで使われていた軟体動物の旧分類として、「後鰓亜綱」の下位に「腸紐目^{ちようぢゆうもく}」というグループがあるが、この「腸紐目」が現在の新しい分類法ではどこに分類されているのか、また、腸紐目という名称の由来について知りたい。

旧分類「腸紐目 (Entomotaeniata)」について調査したところ、『原色世界貝類図鑑 2 熱帯太平洋編』（波部忠重, 小菅貞男／共著 保育社 1979）p.114 では「後鰓亜綱／腸紐目／トウガタガイ起科／トウガタガイ科」、また、『谷津・内田動物分類名辞典』（内田亨／監修 中山書店 1988）の分類表 p. 265 では「軟体動物門／腹足綱／後鰓亜綱／腸紐類／トウガタガイ科」との記載があった。

腸紐目の下位となる「トウガタガイ科」の新分類を調査したところ、『世界の貝大図鑑 形態・生態・分布』（M.G.ハラセウィッチ, ファビオ・モレゾーン／著, 平野弥生／訳 終風舎 2017）の「軟体動物の分類」p.644 では「腹足綱／直腹足亜綱／異鰓上目／トウガタガイ上科／トウガタガイ科」。『岩波生物学辞典 第5版』（巖佐庸／[ほか]編集 岩波書店 2013）の「動物分類表」p.1583の55行目では「軟体動物門／腹足綱／後生腹足類／異鰓上目／異旋目／トウガタガイ」。『日本近海産貝類図鑑』（奥谷喬司／編著 東海大学出版会 2000）の目次XI ii では、「腹足綱／前鰓亜綱／[異鰓上目]／異旋目／トウガタガイ上科／トウガタガイ科」との記載あり。資料により分類が異なるため、インターネットでも調査したところ、日本分類学会連合のホームページ (<http://www.ujssb.org/biospnum/search.php?Kingdom=Animalia&Phylum=Mollusca&Class=Gastropoda&Subclass=Prosobranchia&Order=Heterostropha&Family=Pyramidellidae> 2023.5.12 確認) の「日本産生物種数調査」では、「軟体動物門>腹足綱>前鰓亜綱>Heterostropha>トウガタガイ科」。以上、腸紐目の新分類については、「腹足綱」以下が参照する資料によって異なっており特定することができなかった。

なお、腸紐目の名称の由来は、図書館所蔵資料にはなく、『動物学ラテン語辞典』（小野展嗣／編 ぎょうせい 2009）で、腸紐目の原語「ENTOMOTAENIATA」を調べたところ、この単語はなかったが、p.135に entomo- 「切れ込みのある虫（とくに昆虫）の」の意の接頭語、p.375に taenia ヘアバンド、リボン、紐、紐状器官[解剖]、条虫[動物]との記載はあった。

488.7 大鷹の生態が詳細にわかる本があれば読みたい。

『オオタカ観察記 鳥類画家が見続けた都市近郊での九年間の繁殖記録』(氏原巨雄／著 文一総合出版 2007) は、著者の9年間のオオタカの観察記録で、オオタカの子育ての様子などが詳しく記載されている。児童書では、『オオタカのひなのそだつ里(子どもたのしいかがく)』(松山史郎／文・写真 大日本図書 1998) や、『みる野鳥記 17 タカのなかまたち』(日本野鳥の会／編 藪内正幸／絵 あすなろ書房 1993) p.4～23 までオオタカについて記載あり。なお、市川市立図書館には所蔵がないが、千葉県立中央図書館で所蔵している『オオタカの生態と保全 その個体群保全に向けて』(尾崎研一、遠藤孝一／編著 日本森林技術協会 2008) が、2部構成(第1部「オオタカの生態」、第2部「オオタカの保全」)で、第1部では、オオタカの分布と形態、繁殖生態、生息環境などが写真や絵を使って詳細に紹介されている。

948.9 コルス・アスラク・バルクアパー著の『ラップランドからの挨拶』を探している。

著者をインターネットで検索したところ、Wikipedia より「ニルス＝アスラク・ヴァルケアパー(フィンランド語: Nils-Aslak Valkeapää)」は、フィンランドでの市民権を得たサーミ人のミュージシャン、芸術家、詩人とのこと。NDL サーチで検索したところ、英語に翻訳された『Greetings from Lapland: the Sami, Europe's forgotten people』(Zed Press. distributor, Biblio Distribution Center 1983) が、国立民族学博物館情報管理施設と北海道大学附属図書館に所蔵されていることがわかった。注記によると Translation of: Terveisiä Lapista。(「翻訳: ラップランドからの挨拶」の意) なお、日本語翻訳は確認できなかった。

他にもこんな質問ありました(クイック・レファレンスから)

分類	質問	⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など
133	『現代思想の冒険者たち』(講談社 1996～1999) のシリーズに別巻はあるか、また巻書名が一覧で見たい⇒00 巻～30 巻の全 31 巻で別巻はない。巻書名一覧は 30 巻の巻末に掲載あり。	
778.2	アンディ・ウォーホルと親交のあったモデル、イーディの評伝が読みたい⇒1960 年代のファッションアイコンとして注目されたイーディ・セジウィックのこと。『イーディ '60 年代のヒロイン』(ジーン・スタイン[ほか]／著 青山南[ほか]／訳 筑摩書房 1989)	
780	カローリングというスポーツが載っている本はあるか⇒『21 世紀スポーツ大事典』(大修館書店 2015) p.1024 に掲載あり。日本カローリング協会の HP http://www.curolling.com/ (2023.5.12 確認) が詳しい。	→ TOPICS
913.6	桓武天皇が主人公の小説はないか⇒『桓武天皇 平安の霸王』(三田誠広／著 作品社 2004)	
914.6	薄田泣菫 <small>うすきたききゆうきん</small> の「落葉」が読みたい⇒『薄田泣菫全集 第7巻 随筆篇』(薄田泣菫／著 創元社 1984) p.163～271 所収。	
921	「渭城の朝雨」から始まる漢詩を探している⇒『漢詩大観 索引 2』(佐久節／編 鳳出版 1974) p.298 より『漢詩大観 上巻』 p.757、王維の七言絶句「送元二使安西」。『中国詩人選集 6 王維』(吉川幸次郎[ほか]／編集・校閲 王維／著 岩波書店 1980) p.81-82 に漢詩、書き下し文、口語訳の掲載あり。	

TOPICS カローリング

カローリングは、氷上のスポーツ「カーリング」からヒントを得て、1993(平成5)年に名古屋のベアリングメーカーが開発した屋内競技です。コートの大さは全長13m×幅3mで、プレイヤーは決められた位置から「ジェットローラ」と呼ばれる専用の円盤を押し出すように投球し(滑らせ)、11m先に設置された直径90cmの円内(ポイントゾーン)の中心をねらいます。ジェットローラはオレンジ、黒、緑、黄、黒、赤の6色で、各プレイヤーは決まった色の2個のローラを使用します。1試合は6イニング制が基本で、所要時間は40分程度。競技は1チーム3人編成(2人編成で行う場合もある)で行われます。年齢性別を問わず、児童から高齢者、障がいのある人まで誰でも一緒に気軽に楽しむことができる競技です。



参考資料 『21 世紀スポーツ大事典』